

【特定課題セッション II】

トランスジェンダーのトラウマ経験

ーソーシャルワーク教育におけるトラウマ・インフォームドケアの有用性の検討ー

○ 高知県立大学 長澤紀美子 (3643)

キーワード3つ: 性的マイノリティ、ソーシャルワーク教育、トラウマ

1. 研究目的

2019年度から導入された社会福祉士・精神保健福祉士の新カリキュラムにおいて「差別と偏見」(『社会学と社会システム』)、「精神保健」(『現代の精神保健の課題と支援』)の対象として LGBT が初めて含まれたが、具体的な内容は示されていない(加藤 2020)。一方「NASW (全米ソーシャルワーカー協会) の政策綱領」(2017)や「APA (アメリカ心理学会) ガイドライン」(2015)における性的マイノリティ(以下、LGBT と総称する)に関する指針では、性的指向(LGB)と性自認(T等、ジェンダー不一致)の問題に文書が二分され、各々の生活課題や支援の差異が明確に区別されている(長澤 2020)。しかしながら、英国、アメリカ、カナダ、オーストラリアのソーシャルワーク教育において、LGBTの中でもT(トランスジェンダー)の問題は扱われていないだけでなく、教育研究者が取り上げることに消極的であるとの報告がある(N Hudson-Sharp 2018)。

釜野ら(2019)による大阪市民を対象とした無作為調査によれば、トランスジェンダーは(出生時割当てられた性と性自認が同一のシスジェンダーと比べ)自殺企図は5倍、自殺未遂は10倍であり、LGBなど非異性愛者の異性愛者に対する比率以上に高い。このようにトランスジェンダーのメンタルヘルス上の課題は明らかになっていながら、ソーシャルワーク教育における扱いは日本のみならず、欧米でも不足している。

そこで、本報告では、LGBTの中でもよりメンタルヘルスの悪化が懸念されるトランスジェンダーのトラウマ経験の特徴や背景を整理するとともに、「トラウマ・インフォームドケア」による支援の有用性や課題を明らかにし、ソーシャルワーク教育における導入を検討する。

2. 研究の視点および方法

本研究は日本及び欧米の文献研究である。研究の視点として、LGBTにとって生涯にわたる「抑圧と差別の継続的な経験がトラウマ(心的外傷)化し、メンタルヘルスに否定的な影響を与える」(Mackey 2021)ことに着目し、「トラウマ」及び「トラウマ・インフォームドケア」の概念を用いる。保健医療福祉の専門職にとってLGBTに対する「トラウマ・インフォームドケア」が必要な理由は、本人が「個人、サービス供給者、組織、制度により、意図的・非意図的に関わらず、トラウマ化及び再トラウマ化が絶えずなされる」ため(*ibid.*)、本人が過去に受けてきたトラウマ経験の理解とともに、支援者が保健福祉サービスの提供者として、再トラウマ化を与えないための知識や訓練が必要であるからである。

3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理指針」を遵守している。本演題に関連して、開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

トランスジェンダーのみを対象としたトラウマ経験や「トラウマ・インフォームドケア」に関する英語文献は少なく、LGBT等に対するトラウマ・インフォームドケアについては2010年代後半から散見される。ここでは、LGBTの属性を持つ人は、マジョリティと同様のトラウマ経験（事故や災害等）とともにマイノリティ特有のアイデンティティに起因するトラウマ経験の両方を経験し、後者には日常生活における偏見に基づくマイクロアグレッションや暴言・暴力を受けた経験の蓄積が含まれる。そのため、支援者は、一般的なトラウマとLGBT特有のトラウマがどのような違いがあるか、またインターセクショナルリティ（交差性）によるトラウマの重複、トラウマ経験のメンタルヘルスへの影響、トラウマに対するコーピングスキルやストレングス等について理解することが必要である。(ibid.)

5. 考察

欧米の研究成果を参照し、日本における中高年のトランスジェンダーにとって蓄積されたトラウマ経験とその社会的個人的要因を理解するためには、各々の生活歴や家族形成については個別性が高いことを前提としつつ、質的研究が必要である。

さらに「トラウマ・インフォームドケア」が個人の経験に焦点を当てるものであるため、抑圧や暴力を引き起こしている社会構造を問うことから離れてしまう可能性がある(Page 2023)。また「トラウマ・インフォームドケア」が新たな病理化に導くのではなく、従来コミュニティで展開されてきたピアサポートなどのインフォーマルな資源の有用性を認め、トラウマについて知識を持った専門職とどのように連携していくかが鍵となる。

Hudson-Sharp, N., National Institute of Economic and Social Research(2018),

Transgender awareness in child and family social work education.

加藤 慶 (2020) 「社会福祉学研究における性的マイノリティへの調査研究のあり方に関する研究：調査する者とされる者の間にある課題と対応」『東京通信大学紀要』3:87-99.

北島洋美, 杉澤秀博(2022) 「性的マイノリティ(LGB)高齢者の主観的生活課題」『老年社会科学』44 (3):242-255.

Mackey, J. (2021) *2SLGBTQ+ inclusive Trauma-Informed Care*, The Centre for Research & Education on Violence Against Women & Children, Western University.

長澤紀美子 (2020) 「SOGIに基づく差別とLGBTの健康課題—アメリカ・ソーシャルワーカー職能団体の指針を参考に」『保健の科学』62:248-252.

Page, C., Woodland, E. (2023), *Healing Justice Lineages: Dreaming at the Crossroads of Liberation, Collective Care, and Safety*. North Atlantic Books.

※謝辞：本研究は、JSPS 科研費 20K02267 の助成を受けて実施したものである。